

# リボンの会 秋の医療講演会 & 交流会 報告書



開催日時: 2017年**11月18日**(土)

開催場所: 浜の町病院 3階研修講堂

参加者数: 90名

全6ページ  
writer: n-mak

浜の町病院研修講堂に於いて、医療講演会を開催しました。前日の雨の予報も外れ90名もの方が一同に集いました。

## 【第1部】

### ● 講演 | 『悪性リンパ腫について』 栗山拓郎先生 (浜の町病院 血液内科医)

悪性リンパ腫は風邪のような症状で見つかる場合が多い。通常痛みを伴わないリンパ節の腫れが特徴。また「発熱、寝汗、体重減少」といった「B症状」と呼ばれる症状がある。血液検査や画像検査など、検査は複数あるが、最重要なのは「リンパ節生検」。悪性リンパ腫は「ホジキンリンパ腫」と「非ホジキンリンパ腫」の2つに分けられる。

圧倒的に日本人に多いとされる非ホジキンリンパ腫のうち、講演では「濾胞性リンパ腫」「びまん性大細胞型リンパ腫」「T細胞性リンパ腫」の3つについて、悪性度や予後、副作用や治療法の説明があった。一口に悪性リンパ腫といっても、細かくみていくと50種類以上に分かれ、治療法やその経過も大きく異なる。

「ステージ4だから治らないとは限らない。主治医とよく相談して、治療法を考えていくことが重要です。」とお話があった。





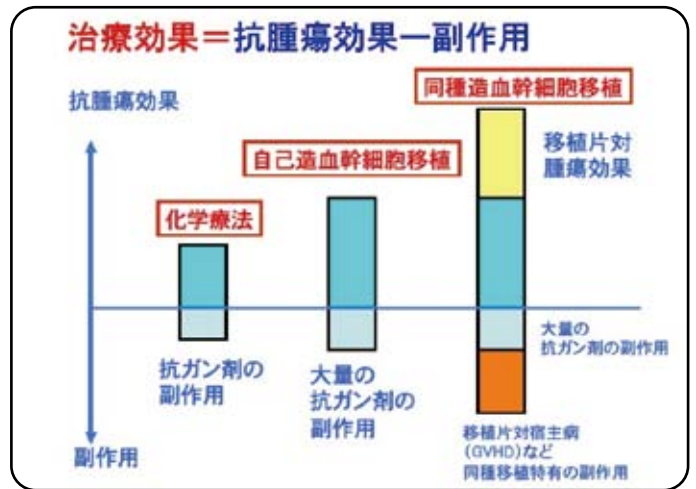
● 講演 II 『同種造血幹細胞移植の今』 衛藤徹也先生 (浜の町病院 血液内科センター部長)

(1) 造血幹細胞移植のしくみ

移植治療の大きな流れは、前処置(全身放射線治療+大量抗がん剤投与)そして造血幹細胞の輸注。輸注される幹細胞により、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植と呼ばれる。生着の時期にあわせてGVHD(移植片対宿主病)が起きることが多い。GVL効果と呼ばれる抗腫瘍効果から副作用(感染症や臓器障害、GVHDなど)を除いたものが、治療効果となる。(※資料1) GVHDと感染症は互いに悪さをし、GVHDと再発も関係をしあう。

(※資料2)

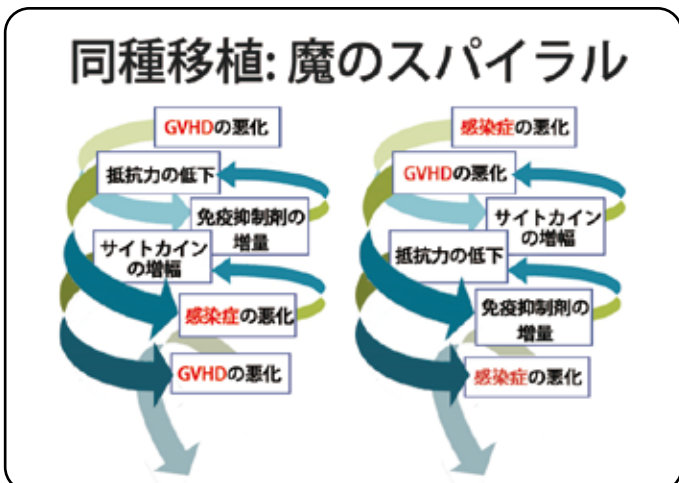
「医療側としてできること、操作ができるのは、前処置の強弱コントロールと免疫抑制の強弱コントロールのみ。これですべてを決めていく。」



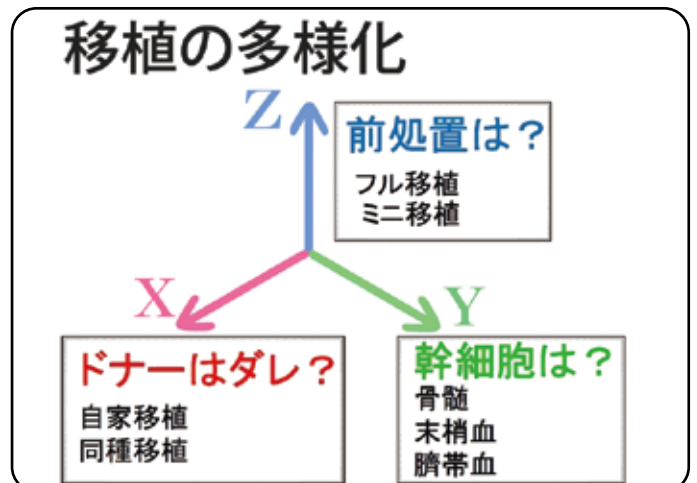
資料1

(2) 最近の移植の発展-ハプロ移植について

前処置の強度、ドナーや幹細胞の選択肢により、治療の選択肢はととも増えた。最近「ハプロ移植 (HLA半合致移植)」というHLAが半分しか合っていない移植の開発が全世界で進んでおり、理論上従来の兄弟姉妹以外に両親や祖父母もドナーになりうる。この治療ではHLA(免疫)の壁を乗り越えるために白血球のうちT細胞のコントロールが必要。そのため抗胸腺細胞グロブリン (ATG) の使用及び、GVHDの予防のために、従来、移植前に入っていたシクロホスファミド (エンドキサン) を移植後に使うことになる (「Post-CY」という)。(※資料3)



資料2: イメージ画像



資料3: イメージ画像



### (3) とともに治療を目指そう

治療方針の決定には、パターナリズムモデル、シェアードディシジョンモデル、インフォームドディシジョンモデルの3種類があり(※資料4)、その内容や違いについて説明があった。



資料4: イメージ画像

### ● 講演Ⅲ 『血液がん治療を支える口腔管理』

#### -治療開始から退院・日常生活の中での口腔管理の重要性-

野上純子先生(浜の町病院 歯科衛生士)

化学療法や放射線治療を受けることで、抗がん剤で生じた活性酸素で粘膜が直接障害を起こし、唾液分泌が低下し、口腔粘膜炎や口腔乾燥、味覚異常へつながる(QOLの低下)。

そのため口腔粘膜炎の重症化や重篤な感染症予防のため、歯科受診し感染源になりうる歯の治療や歯石除去、歯面清掃でプラークフリーの状態を保つこと、効果的なセルフケアを身につけ、習慣づけることが大事である。また移植治療中、倦怠感や発熱でセルフケアが難しいときは、看護師や歯科スタッフの介助をしてもらうことが大事(特にうがいと保湿が重要)。

移植後の免疫抑制剤によって、広範囲かつ重篤な口腔粘膜障害(ウイルス感染や真菌感染など)を引き起こすことがある。

退院後も良好な口腔衛生状態を保ち、定期的に歯科受診を受けることが必要。(浜の町病院血液内科では、主に入院中の患者に対して口腔管理は血液内科病棟主治医の指示のもと歯科衛生士や非常勤歯科医師が主となり、歯科疾患の精査や清掃、感染源除去、セルフケアの指導を行っている。)





● 質疑応答

**質問** 再発予防の観点から、日常生活で気をつけたほうがいいことは？

**回答** これに気をつけたら再発を防げるというものはない。ただし治療に支障が出てくるので、普段の食生活の工夫で予防できる糖尿病や高血圧症などの生活習慣病に気をつけて。他のならないで済む病気にならないで。

**質問** インフルエンザワクチンについて

**回答** ワクチン接種は問題ないが、治療で使用した薬剤の影響で抗体がうまくできないことがある。ご家族など周囲の方が接種を受ける。手洗いうがいの徹底、人込みを避けるといった防衛策が有効。

**質問** プラーク(歯垢)って、歯にくっつくだけじゃないの？

**回答** 意外に思われるかも知れないが、食べないときは粘膜にプラークがべったりつく。細菌の温床になり肺炎の原因にもなる。スポンジブラシで粘膜清掃を行ってください。また入れ歯の清掃もお忘れなく。





## 【第2部】

### ● 小グループによる交流会

今回のグループ分けは「患者さん」と「家族・友人」に分かれ、そのうち患者さんは「移植治療を受ける方や経験者」「化学療法のみの方」「シニア世代の方」の3つに分かれました。



- 1) 「移植グループ」**では、参加された歯科の先生から、直々に口腔ケアについて教わることができ、また移植治療を受けて数年経った今も元気な方にお会いすることができ、大きな励みとなりました。(M)
- 2) 「シニア世代グループ」**は毎回この会を楽しみに出席されている方が何名かおられて、互いの情報交換はいつも賑やか。初めて参加された方も和気あいあいの雰囲気の中で自己紹介されています。  
「病気はあるけれど、楽しいことも考えて過ごしましょう」と前向きな発言に肯く参加者。  
「また次回会いましょうね」と互いの体調を気遣って別れました。(S)
- 3) 「家族のグループ」**は、皆さん、今の状況と向き合いながらの懸命な思いにあふれていました。お互いを気遣いながらも、打ち明けるところは気丈に、揺れるところはありのままに語り合えたと思います。  
家族としての日常は各々違いますが、「希望」でつながる仲間でした。うなずきあえる笑顔と家族同士ならではの共感、この分科会ならではの手応えです。(I)

沢山の回答をいただきましたが、紙面の都合上 一部をご紹介します

1. 口腔ケアの介入が頻回にあつて頼もしいです。AYA 世代のお話も聞いてみたいです。学業、就職、恋愛、妊孕性など。(患者・20代) ※AYA世代とは、15歳から30歳前後の思春期・若年成人のこと  
※妊孕性とは妊娠する力のこと
2. 初めて参加させて頂きました。同じ病気の話の話を聴けるのは安心感を与えてくれます。今後どう進展するか分かりませんが今後も参加したいと思います。(家族・50代)
3. 皆病気を心配しながら前向きに生きていこうとのグループ会は良かった。(患者・70代)
4. 初めて参加させて頂きました。同じ境遇の方たちとの交流で又新たな力が湧いた気がします。(家族・40代)
5. 勉強になりました。質問する人が多く悩みがありますね。丁寧にお答えになっていました。(患者・70代)
6. 良かったです。治療の厳しさもわかりました。(70代)
7. 現在治療中に出席させていただいてます。勉強になることばかりです。(患者・80代)
8. セカンドオピニオンに行った病院で見かけて知りました。勉強になりました。(患者・50代)
9. 交流会の参加は2回目ですが、治療方が進んでいるようで安心しました。(家族・70代)
10. 血液がんとは大変な病気だと自分の病気を自覚しました。(患者・60代)
11. 息子が急性白血病になり幸いにもドナーから造血幹細胞移植を受け治療中、前処置、GVHD は大変苦痛であったが感謝している。ハプロ移植について更に研究が進むことを期待している。(家族・80代)
12. 4月から悪性リンパ腫の治療を開始し、9月で一旦終了しました。現在の治療方法など全般的なお話を聴く事ができて大変良かったと思います。(患者・50代)

### 【医療関係者の方からのアンケート紹介】

- ・内容がなかなか良い会でした。次回もよろしくお願いします。
- ・先生方のお話が解かり易く勉強になりました。治療体験者も加えていただきたい。
- ・歯科衛生士さんのお話が聞けて大変興味深かったです。お2人の先生の講演が解かり易かったです。



リボンの会 事務局本部

公式サイトURL: <http://ribonnokai.info/>

E-mail: <http://ribonnokai.info/mail.html>